

平成28年12月期




決算説明会用資料

ダイトロン株式会社

証券コード: 7609

**連結決算概要について
(業績結果及び見通し)**



代表取締役社長 前 績行

16/12期 業績結果

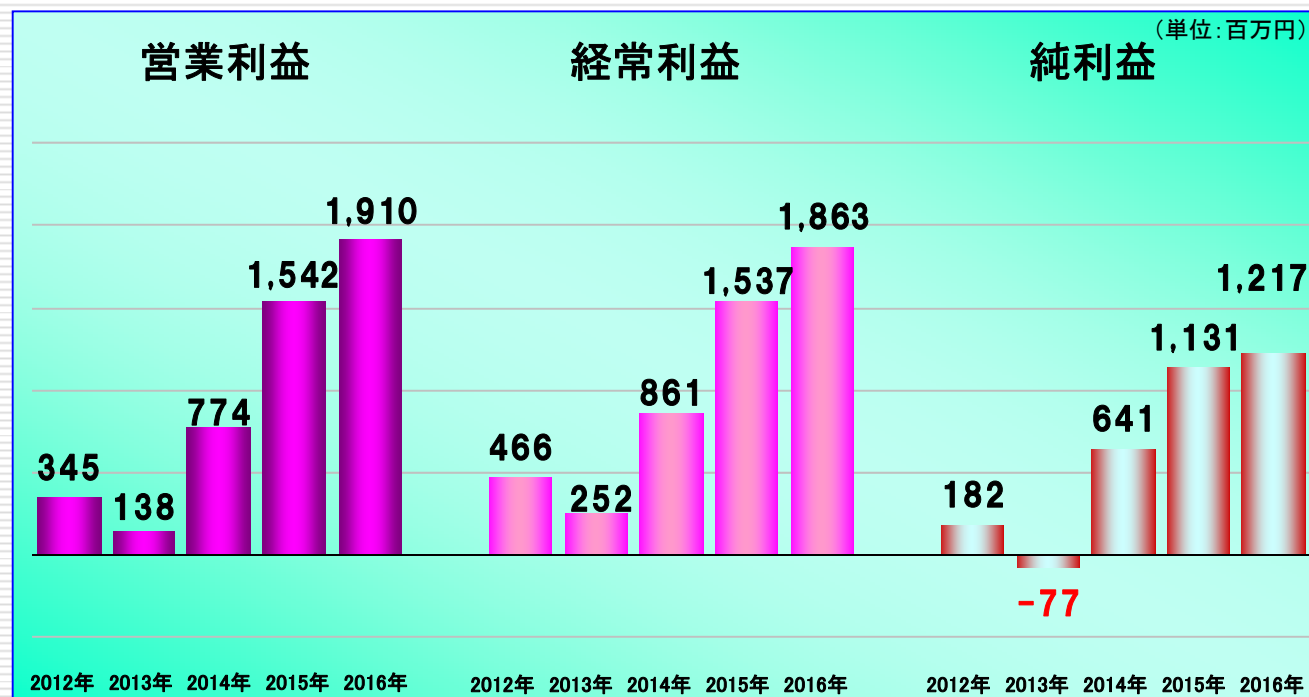
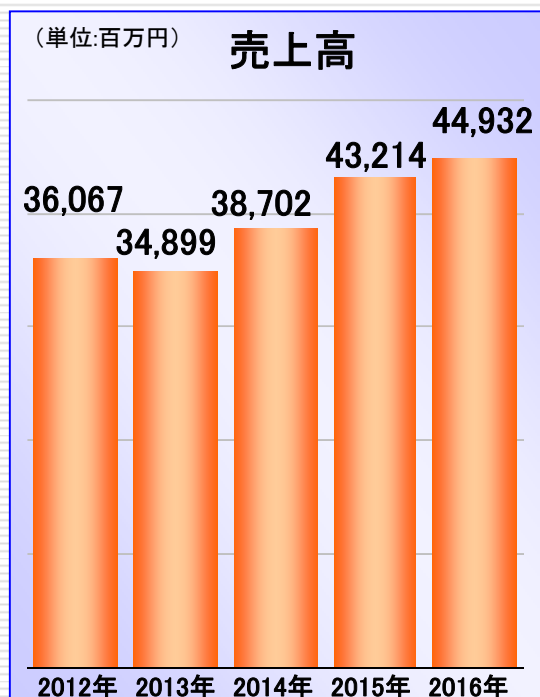


■ 売上高 44,932百万円
(前年比 104.0%)

■ 営業利益 1,910百万円
(前年比 123.9%)

■ 経常利益 1,863百万円
(前年比 121.2%)

■ 当期純利益 1,217百万円
(前年比 107.5%)



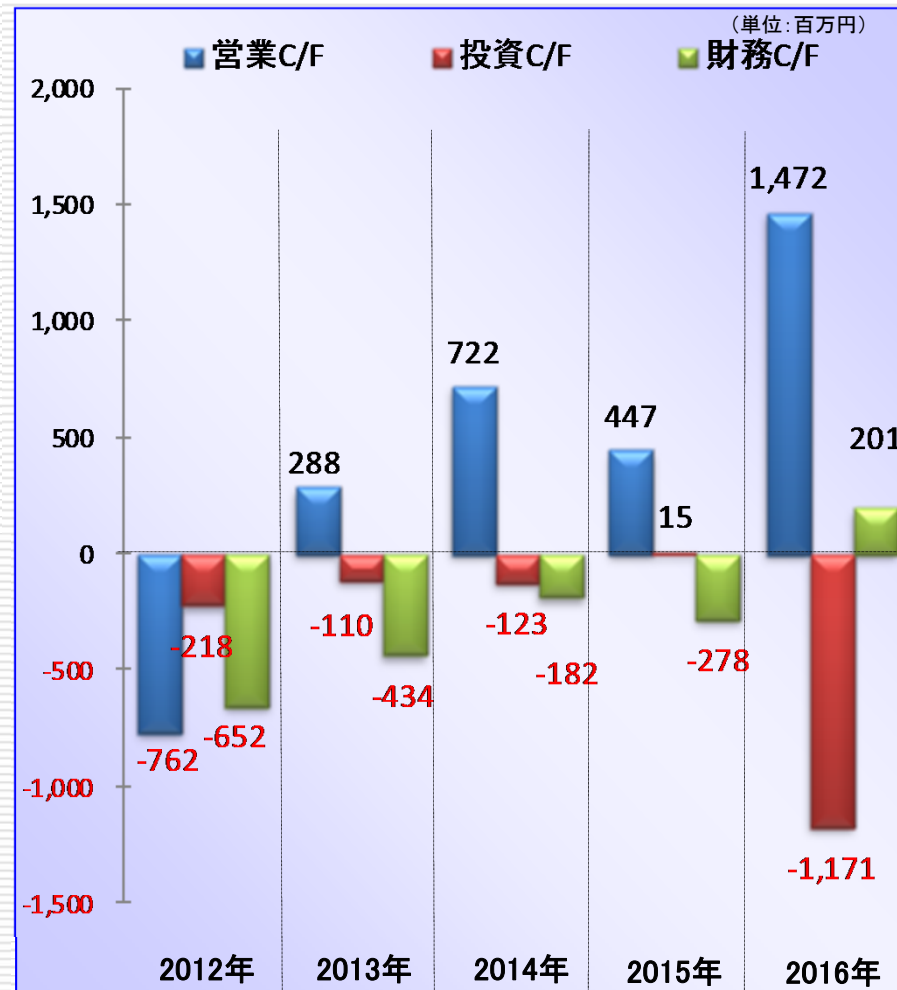
16/12期 財政状態、キャッシュ・フローの状況



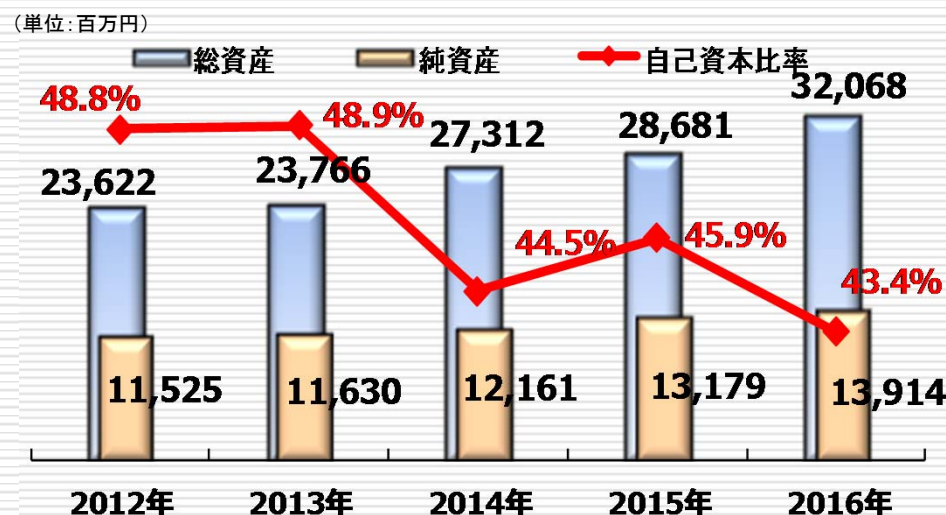
連結財政状態

総資産 32,068百万円 (3,387百万円増)	負債 18,153百万円 (2,651百万円増)
	純資産 13,914百万円 (735百万円増)

連結キャッシュ・フローの状況



総資産・純資産・自己資本比率



16/12期 セグメント別概況

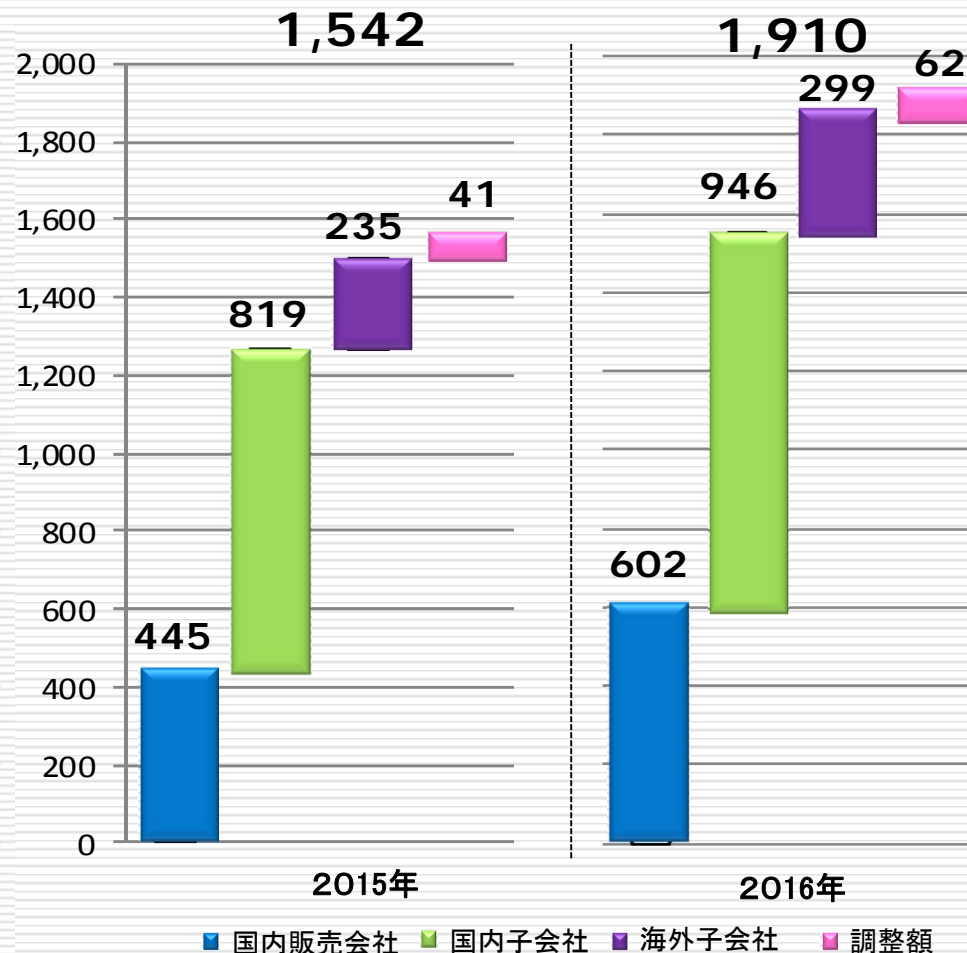
売上

(単位:百万円)



営業利益

(単位:百万円)



(注)セグメント利益又は損失の調整額には、セグメント間取引消去及び各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販管費及び一般管理費です。

16/12期 当社の事業構造

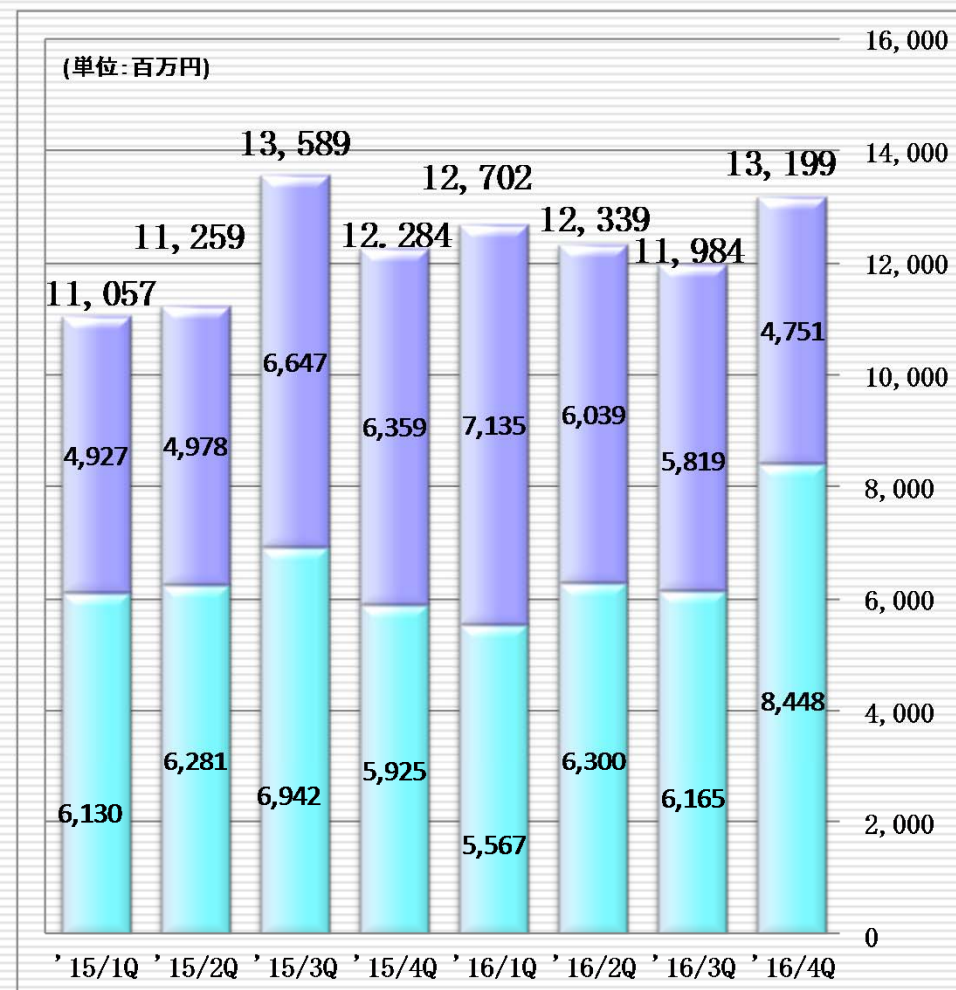
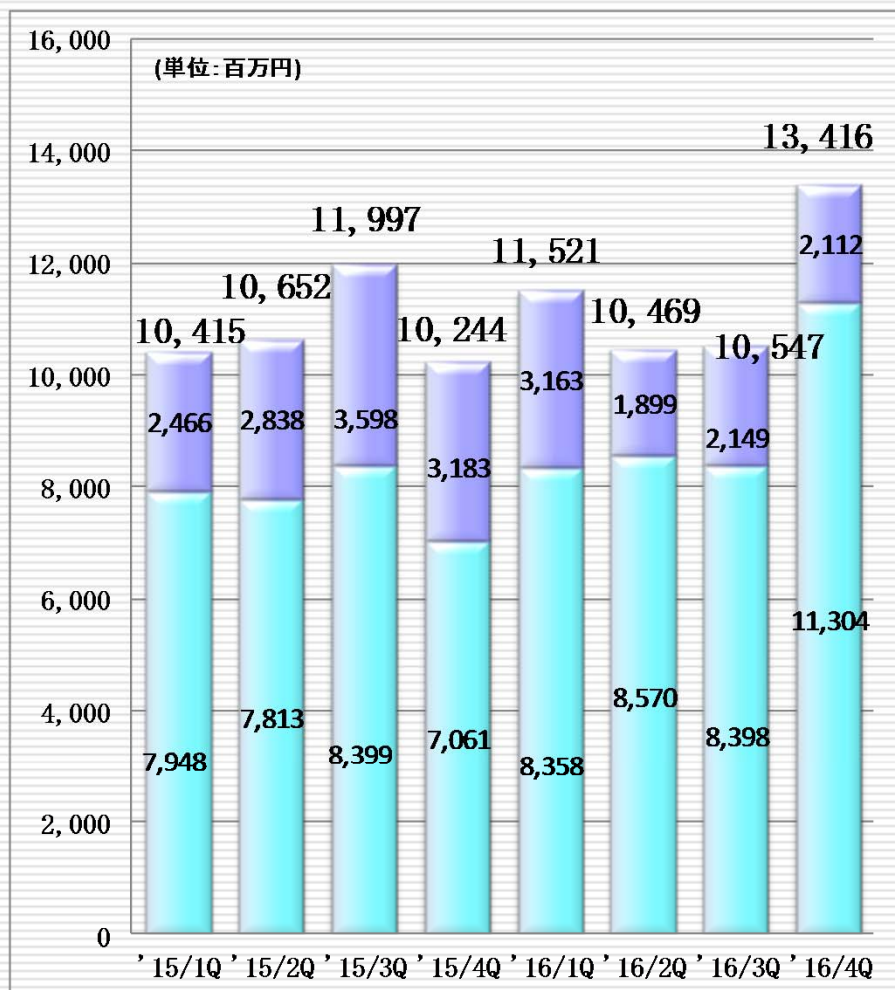


事業	商品セグメント別	売上高構成比	総利益率	オリジナル 製品比率	海外売上比率	
電子機器・部品	電子部品&アセンブリ部品	30.7%	23.1%	23.8% (前年同期: 24.8%)	北米 2.9% (前年同期 3.2%)	
	半導体	4.0%	20.3%			
	エンベデッドシステム	6.8%	14.7%			
	電源機器	5.2%	31.2%		23.8% (前年同期: 24.8%)	欧州 0.4% (前年同期 0.2%)
	画像関連機器・部品	21.5%	17.8%			
	情報システム	5.4%	26.4%			
	電子機器・部品のその他	2.0%	14.9%			
製造装置	半導体・FPD製造装置	12.5%	20.7%	23.8% (前年同期: 24.8%)	アジア 13.0% (前年同期 12.3%)	
	電子部品製造装置	9.1%	36.6%			
	製造装置その他	2.8%	14.2%			
全体		100.0%	22.4% (前年同期:21.9%)	23.8% (前年同期:24.8%)	16.3% (前年同期:15.8%)	

■ は、当社オリジナル製品を含んだ商品セグメントとなっております。

受注高

受注残高



■ 電子機器及び部品 ■ 製造装置

17/12期 連結業績見通し

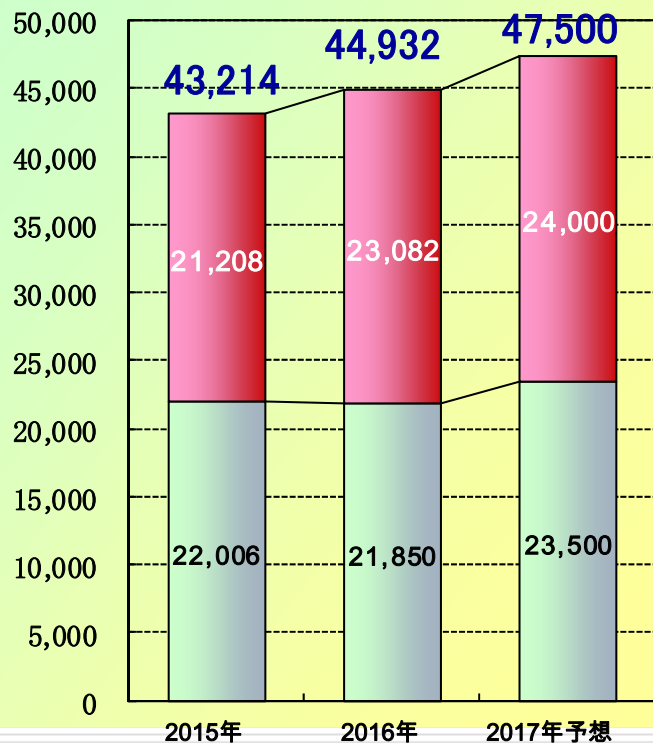


(単位:百万円)

(単位:百万円)

□ 上期
■ 下期

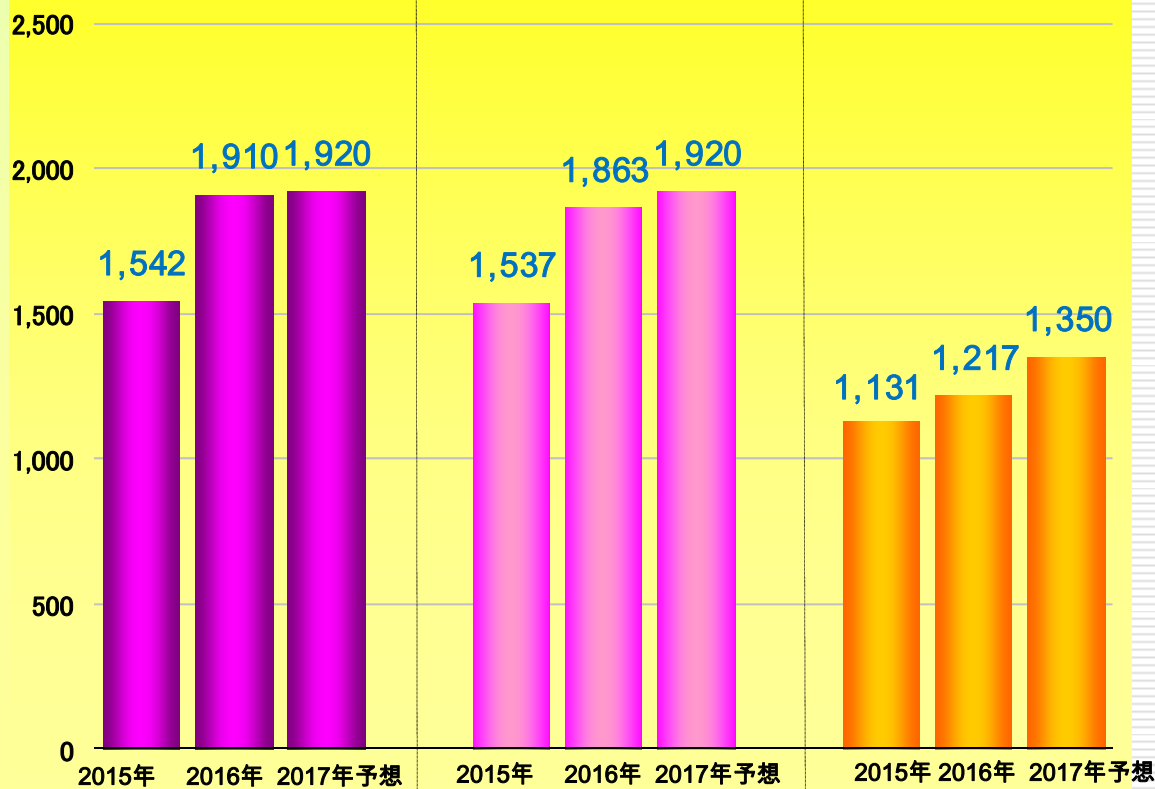
売上高



営業利益

経常利益

当期純利益



17/12期 商品セグメント別業績見通し



電子機器及び部品関連

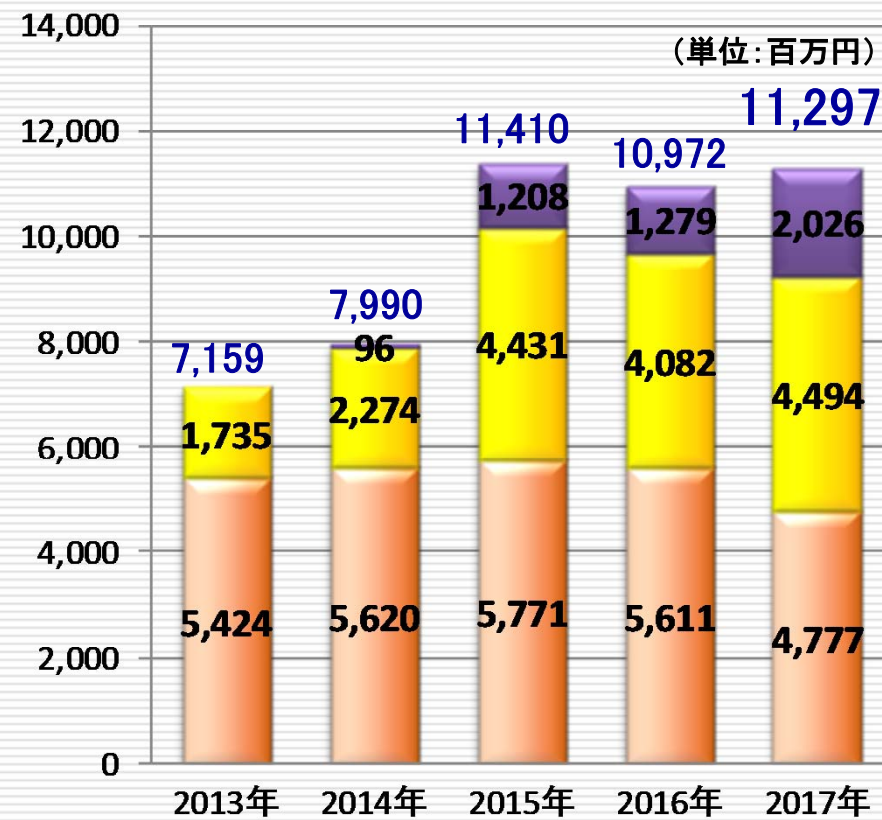
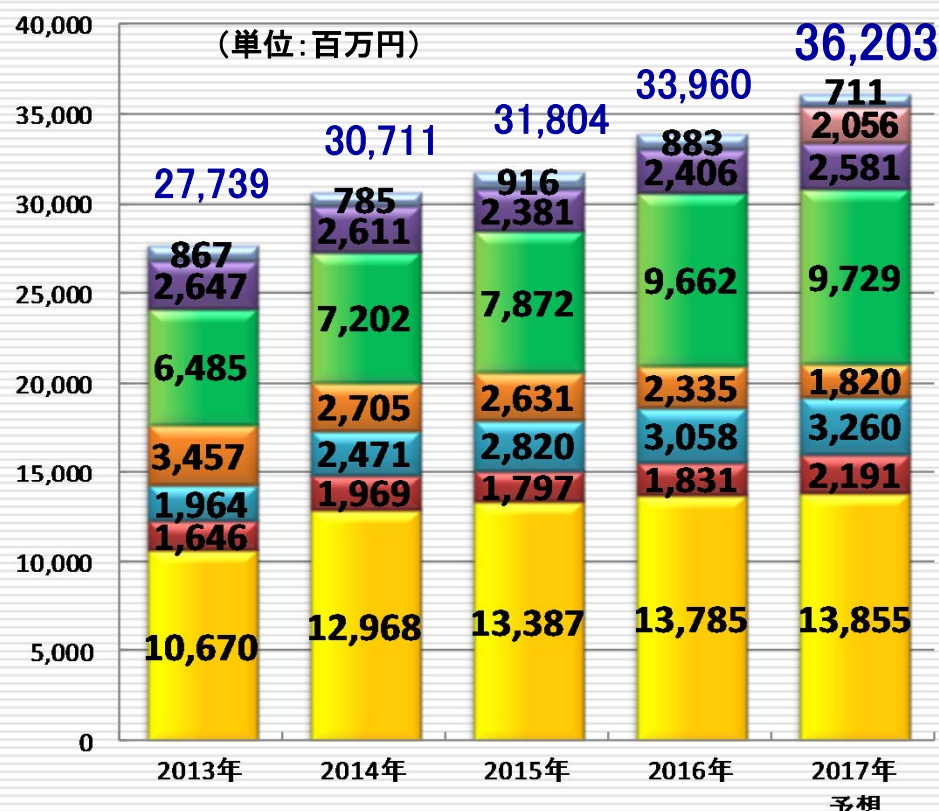
■売上高 **36,203百万円**

◆前年比 **6.6%増**

製造装置関連

■売上高 **11,297百万円**

◆前年比 **3.0%増**



- 電子部品&アセンブリ
- 半導体
- エンベデッドシステム
- 電源機器
- 画像関連機器・部品
- 情報システム
- グリーン・ファンリイ
- 電子機器・部品のその他

- 半導体・FPD製造装置
- 電子部品製造装置
- 製造装置その他

製造装置関連に関しましては、2015年より商品セグメントを見直した関係で、新商品セグメントで表記しております。

17/12期 減価償却費・設備投資額・研究開発費

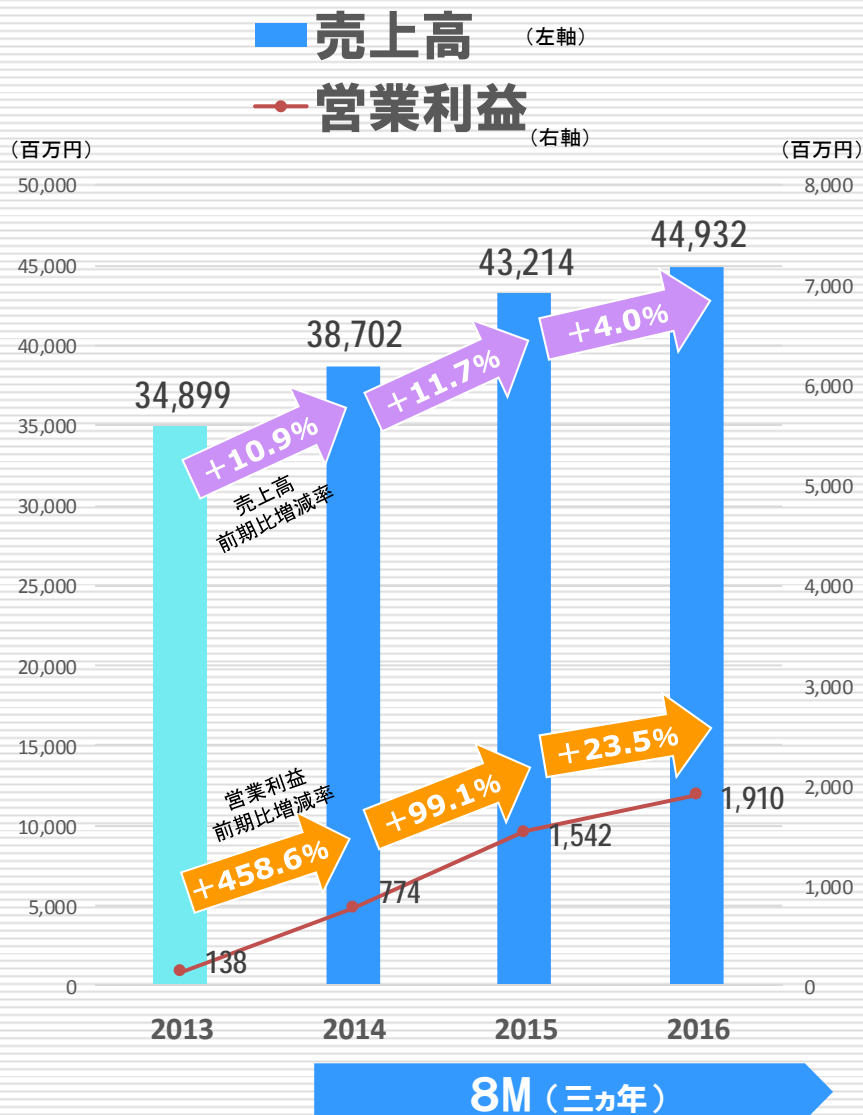
(単位:百万円)

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年 予算	前年比 (%)
減価償却費	523	385	353	356	430	120.8
設備投資額	217	218	332	1,244	133	10.7
研究開発費	129	141	139	167	95	56.9

第8次中期経営計画 評価



8Mの評価 ①定量面



【総評】

- **事業構造変革** (半導体設備産業への依存度低減など) により、**安定成長基盤が定着**

【売上高について】

- 「3年連続2桁成長」を逃したものの、3年間、成長トレンドを持続
- 最終年度実績は、2013年度比で **1.29倍**

【営業利益について】

- オリジナル製品の着実な伸長により、大幅な利益改善を実現
- 最終年度実績は、2013年度比で **13.8倍**

8Mの評価 ②定性面

基本方針	主な成果
<p>① 事業構造の変革を加速</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業ポートフォリオの変革 ・ビジネスモデルの変革 	<ul style="list-style-type: none"> ● 半導体設備産業への依存度低減を目指した取り組みが着実に進行 【依存度(売上高ベース)】ピーク時50%超 ⇒ 2016年度 約38% ● 保守メンテナンスや消耗品供給などの新たな付加価値サービス開発の取り組みは、「グリーン・ファシリティ一部」への積極的な経営資源投下により、来期より成果の刈り取りが始まる状況
<p>② 経営のスピードアップ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 経営会議資料と経営会議の早期化による、経営判断の迅速化が着実に進行
4つの戦略テーマ	主な成果
<p>① オリジナル製品の強化・拡大</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● オリジナル製品の強化・拡大は順調に進展してきている 【オリジナル製品比率】2013年度22.2% ⇒ 2016年度 23.8% (+1.6ポイント)
<p>② 海外ビジネスの強化・拡大</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● アウト・アウト(三国間貿易)の売上拡大などにより、海外事業の規模は順調に拡大 ● ただし、この3カ年は国内の伸び率が大きく、海外売上高比率は下降線を辿った 【海外売上高比率】2013年度18.0% ⇒ 2016年度 16.3% (△1.7ポイント) ● 海外ネットワーク(拠点)拡大に向けた準備も着実に進展
<p>③ 新規市場・顧客の開拓</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 米国イートン社と連携した新規事業の取り組み(グリーン・ファシリティ一部)に3年間注力(当社営業員の約10%投入など)してきたことで、新たな市場・顧客開拓の素地を築くことができた (2017年より、成果の刈り取り始まる)
<p>④ 既存市場・顧客の深耕と横展開</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● LED、パワーデバイス等の既存市場では、技術革新や環境変化のスピードが極めて速く、深耕策や横展開には、当初の想定よりも時間を要している (遅れ気味)

2017年1月1日、3社合併により

ダイトロン株式会社

がスタートしました。このタイミングに合わせて、
長期的な視野に立った中期経営計画を策定し、
ダイトロンは新たな第一歩を歩み始めます。

第9次中期経営計画(9M)



1 新グループ・ステートメント

Creator for the *NEXT*

エレクトロニクス業界を担う企業として、グループのネットワークを活かし、新しい価値をクリエイトする決意の表明

対外的メッセージ

「グローバルな観点で市場を捉え、お客様ニーズの一步先の価値を創造し、提供する」という意志を表明

社内的メッセージ

「常に次なる事業を創造し、さらなる成長のステージへ挑戦する」というスピリットを表明

N : Network

E : Engineering

X : (Synergy)

T : Trading

**「製販融合路線」により、
更なる成長を目指す**

3 目指す姿

- **製販が融合した他に類を見ないユニークな企業**

- 顧客から見た場合「頼もしく」、仕入れ先から見た場合「安心感」のある

- 商社の「ダイナミズム」とメーカーの「可能性・着実性」を併せ持った

- **業界にとってなくてはならない特徴ある技術・製品を有する企業**

- **社員にとって働き甲斐があり、誇りに思える企業**

- **一致団結の強さと同時に自律能動的に動く組織**

3 将来の目標

7Mと8Mで行った「事業構造の変革」を基礎に、
9Mより「売上・利益の成長本格化」を図り、
将来的に「1,000億円企業」の実現を目指す。

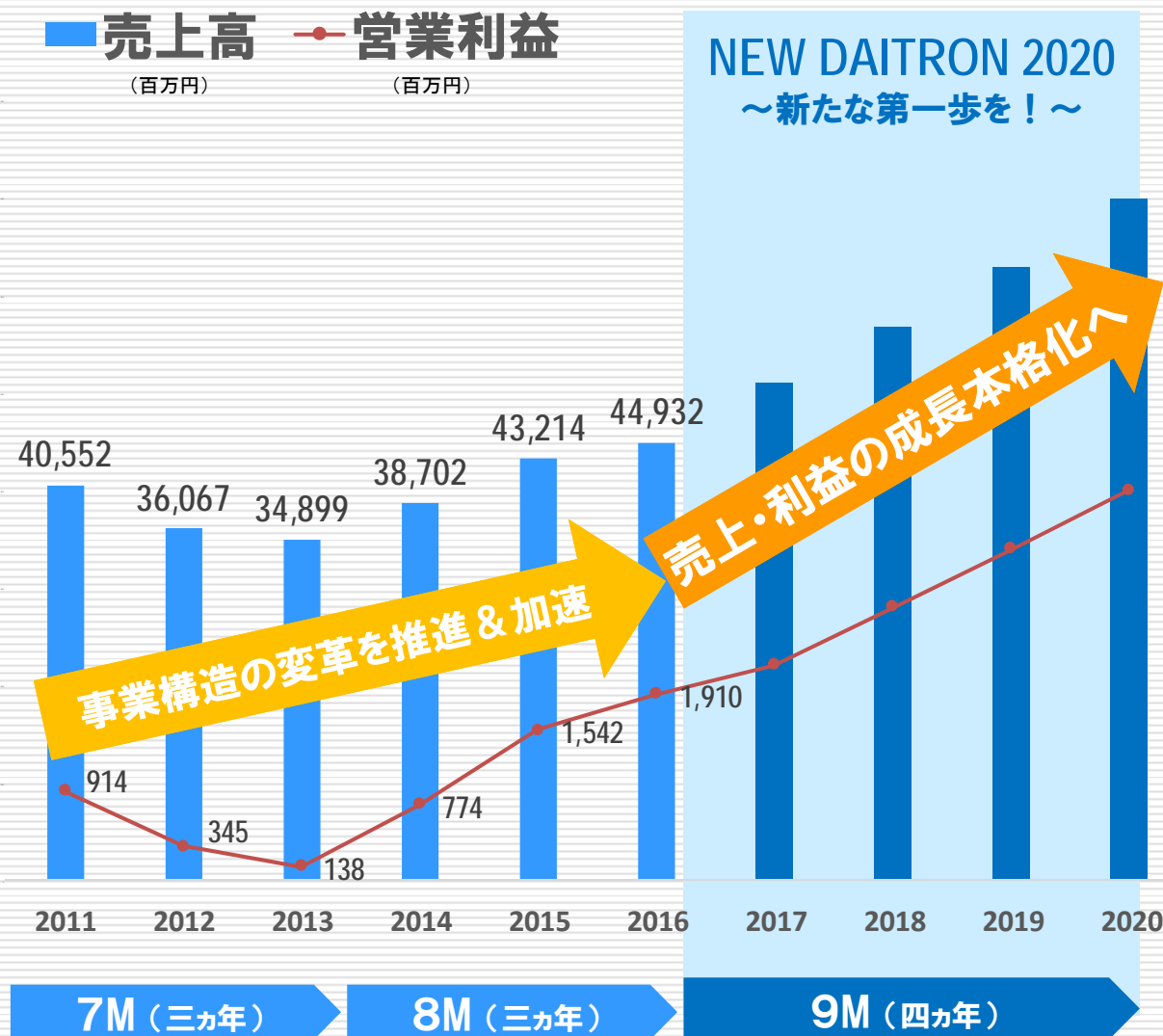


長期目標

**連結売上高
1,000億円**

1) 数値目標(連結)

■ 売上高 (百万円) ● 営業利益 (百万円)



【2020年 数値目標】

売上・利益の持続的な
成長により
過去最高実績を越えて
更に先の成長を目指す

【目標とする経営指標】

自己資本比率

50%

ROA

4%

ROE

8%

2) 基本方針と基本戦略

【基本方針】

**長期ビジョン(基本構想)の実現に向け
製販融合路線を目指す新たな枠組みのもとで
3社統合効果(シナジー)の最大化を図る**

【基本戦略】

- ① **成長性重視の事業再構築を推進**
- ② **オリジナル製品開発の強化**
- ③ **海外ビジネス展開の強化**
- ④ **マーケティング力&営業力の向上**
- ⑤ **生産部門の統合強化**

【基本戦略①】成長性重視の事業再構築を推進 **Daitron**

●成長性に基づく投資バランスの最適化を推進

- ・「高成長」「安定成長」「収益改善」の3区分での投資配分

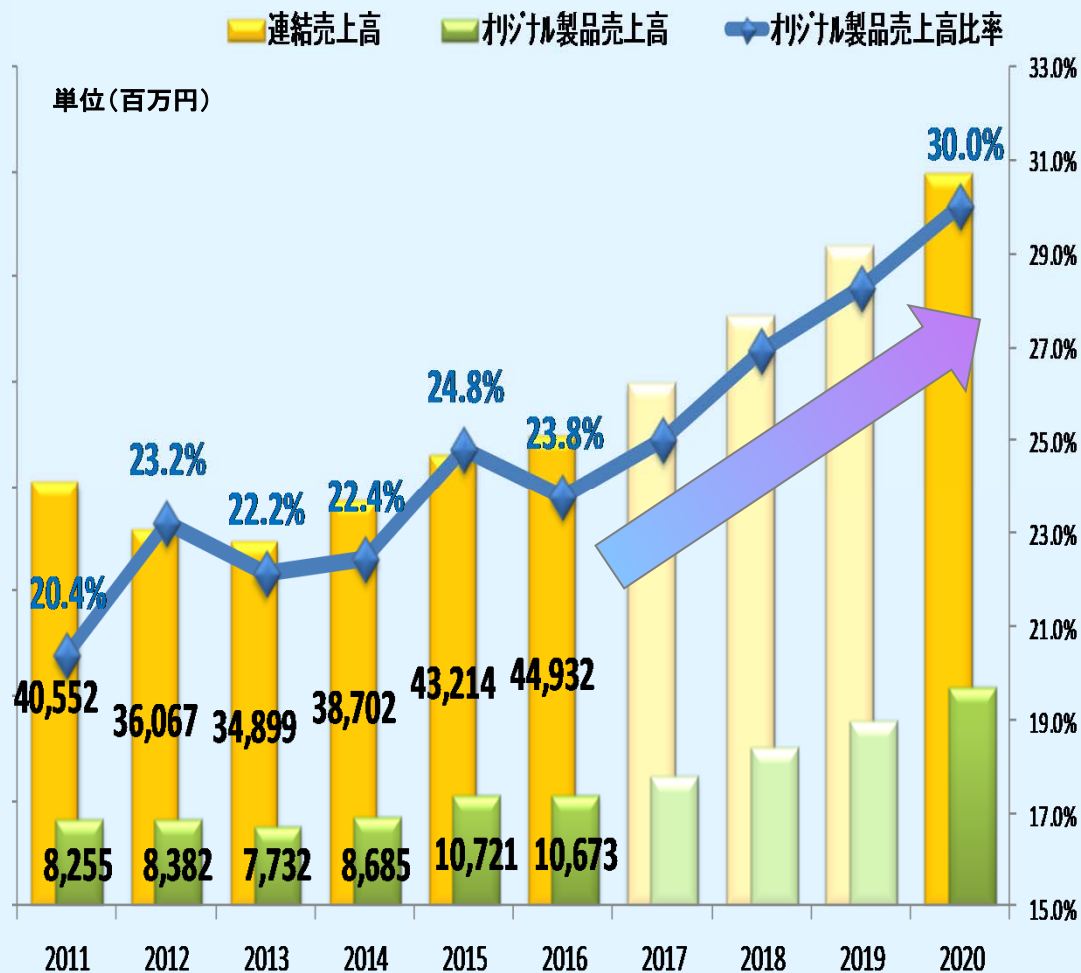
●成長性が有望視される新市場開発を推進

- ・「オートモーティブ」「メディカル」「インフラ」「ロボティクス」「航空宇宙」等の領域を開発
- ・その一方で、事業ポートフォリオ再構築を進め、「半導体設備産業比率」を30%に抑制

●新規事業として、IoT関連分野への進出を強化

- ・「ネットワーク」「データセンター」「ビッグデータ処理」「センサー」「ゲートウェイ」「ソフトウェア」等

【基本戦略②】オリジナル製品開発の強化

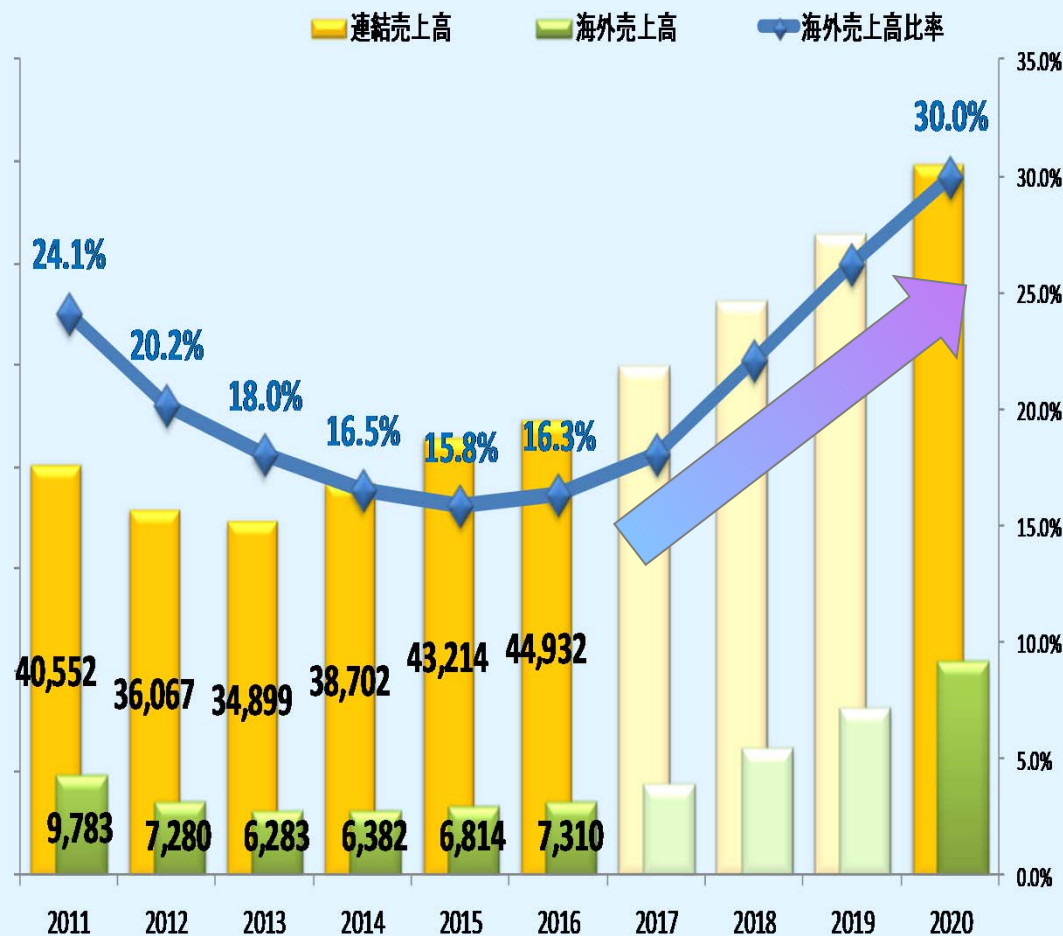


オリジナル製品比率
(売上高ベース)
2020年 30%を目指す

戦略ポイント

- 「事業ユニット」に基づく強化・拡大戦略を展開**
- ⇒ 事業ユニットを増やす
 - ⇒ 各事業ユニットの規模を拡大する (1ユニット当たり10~20億円を目指す)
 - ⇒ 仕入先との連携によるラインナップ強化を図る

【基本戦略③】海外ビジネス展開の強化



海外売上高比率
(売上高ベース)
2020年 30%を目指す

戦略ポイント

- 地域に密着したビジネス展開を目指す**
- ⇒ ローカル企業との取引拡大
 - ⇒ 電子部品ビジネスの拡大
 - ⇒ アウト-アウト ビジネスの拡大
 - ⇒ 地域独自のビジネス推進
 - ⇒ ネットワークの拡充

【基本戦略④】マーケティング力 & 営業力の向上 *Daitron*

戦略 ポイント 1

国内外における 販売ネットワーク拡充

- 【国内】 ● 東北地方 ● 四国地方 など
- 【海外】 ● ベトナム ● インド ● 欧州 など

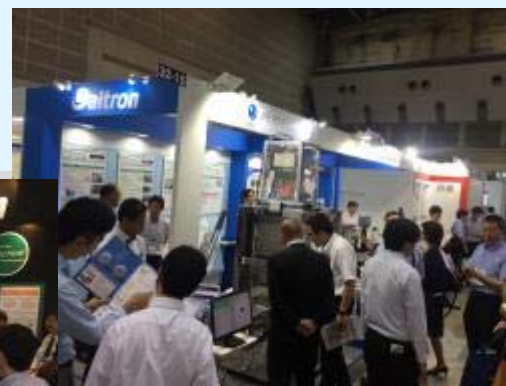


戦略 ポイント 2

既存市場における プレゼンス向上

- 展示会(専門、顧客内)の展開強化
- 市場別の営業活動、プロジェクト運営の強化 など

カーエレクトロニクス技術展



インターフェックス展

中部工場 (愛知県一宮市)

ダイترونグループの
基幹工場として新設



【第1期】電子機器・部品関連生産体制

⇒ 2016年11月～稼働

【第2期】装置関連生産体制

⇒ 2018年上半期の稼働開始を目指す

製造と開発の 中核拠点へ

● 中部工場への生産集約

(完成度の高い製品、量産品、航空機関連、
自動車関連など)

● 中部工場内に装置・電子 機器・部品開発の技術者が 協業できる体制が整う

(国内外の技術部門との横連携・情報共有化)

技術で立つ会社へ

新生・ダイترونグループは、
3社統合効果の最大化により、
製販融合路線による
エレクトロニクス業界の技術立社として、
独自の進化を目指してまいります。

この資料で述べられている将来の当社業績に関する見通しは、現時点で知りうる情報をもとに作成されたものです。

当社が位置するエレクトロニクス業界の電子機器・部品産業並びに製造装置産業は、テクノロジーの変化やスピードが大変速く、競争の激しい産業です。また、北米やアジア諸国の経済情勢など、当社の業績に直接的・間接的に影響を与える様々な外部要因があります。

従いまして、今後、当社の業績の見通しが本資料と異なる可能性があることをご含みおき下さい。

《本資料並びにIRに関するお問い合わせ先》

経営システム部 広報・IR担当

TEL:06-6399-5952

FAX : 06-6399-5962

e-mail : kouhou@daitron.co.jp